

英虞湾：景観、歴史、文化

英虞湾は三重県の東南端にある陸地に囲まれた穏やかな湾です。英虞湾の入り組んだリアス海岸とモザイクを織りなす島々は、何世紀にもわたって観光客を惹きつけてきました。山腹に位置する横山展望台エリアからは、海拔 140 メートルからのパノラマの景色が望めます。

英虞湾の地形は、いくつかの地質学的プロセスの珍しい組み合わせによって形づくられました。何億年も前に、プレートテクトニクスによって海底が押し上げられ始めました。この海底は最終氷期に海面上に上昇し、河川と谷地形の多い景観をつくりだしました。約 1 万年前に氷期が終わると、これらの谷は部分的に海に沈んで英虞湾の特徴的な段状の入江となり、海で隔てられた山々は英虞湾に浮かぶ 50 以上の大小の島々となりました。

英虞湾と横山地域は、伊勢志摩国立公園内にある日本の伝統的な沿岸の生活様式を維持している特別地域のうちの一つです。何千万年以上も前に始まった地殻変動によって形成され、人間の暮らしによってさらに形を変えたこの景観は、持続可能な環境管理の可能性を示す生きた証拠です。

英虞湾は「里海」と呼ばれる住民の生活が海を拠り所として営まれている沿岸地域の一例です。他の里海と同様、英虞湾は生産性、生物多様性、持続可能性のために管理されています。溪流の恵みを受け、沖合の黒潮で暖められ、西の御座岬まで続く半島に守られた英虞湾は、古くからさまざまな産業や生活様式を支えてきました。

現在、この湾はあおさのりと呼ばれる青海苔の一種の養殖と、湾内のそこそこに浮かぶ筏と島々の海岸線に建てられた作業小屋で行われる真珠の養殖に利用されています。湾口のすぐ外側では、海女と呼ばれる女性潜水漁師たちが岩場の海底で貝やナマコ、海藻を獲っています。里海とその資源を将来の世代に残すため、法律や慣習によって乱獲が抑制されています。

横山の木々が鬱蒼と茂る斜面も、「里山」（多目的に利用される森林地域）として持続可能な管理が行われてきた独自の歴史を持ちます。住民たちは、硬くて密度の高いウバメガシの木を使って活性炭の一種である備長炭を作りました。アラカシは薪に利用されました。

